

大岡丹後守忠烈○武藏 時獻上六月岩楓索麺 片桐主膳正貞彰○大和 時獻上中寒平。

索麺

索麺商

索麺賣

〔七十一番歌合〕卅七番 右

てうさいのこしきの上のあつむぎのむしあげのせとの月渡るみゆる

我戀は建仁寺なるさうめむの心ふとくもおもひよるかな

〔人倫訓蒙圖彙六〕素麵師 伊興大和の三輪、其名高し、京にするを地そうめんといふ、

〔貞順故實聞書條々三〕一素麵を給候時も、汁をば吸候はず候、又温飪の時も同前に候、又羹の時も汁をば不吸候也、

〔料理物語後段〕にうめん まづ素麵をみじかくきりゆで候て、さらりとあらひあげをきたれみそにだしくはへふかせ入候、小なねぶかなすびなど、入てよし、うすみそにても仕立、胡椒さんせうのこ、

〔宇野主水記〕一九日 三年三月 大坂ノ幸藏主貝塚へ下向、○中夜ニ入北御方へ被參、下ノ御屋敷ニ

テサウメン御酒謠ナドアリ、

〔蛻巖集後編一〕謝徳島荒川生惠白髮麺歌

君不見鳥有白頭翁藥有白頭翁媚春雨舞春風那知麺條欺白髮線々作團與雪同儂里麺人製新樣
三輪豫章巨爭工金母帽邊光相射玉女盆中影不空白髮之號雖則老風流可入少年叢嗟々半死蛻
巖翁誰憐滿顛如霜蓬上不爲經世濟民之良弼下不爲塞旗斬關之英雄昇平天地覆載久百年甘化
蠹紙蟲伏生蒲輪今已矣悔不僧牛隱牆東白髮麺白髮麺感君惠餽訴寸衷近日鶯花偏千里行樂不
敢哭途窮

蕎麥切

〔書言字考節用集六〕服食 蕎麥麺綱目

河漏王禎農書謂之河漏